

次ページへ続く

Continued on next page...

禁裡御蔵書目録考證稿(一) 『桂宮御蔵書目録』(翻刻)

山 崎 誠

昭和六十二年、極めて刺激的な二巻の書籍目録を目覩することが出来た。一つは東京国立博物館で催された重要文化財新指定展に出陳された冷泉時雨亭文庫蔵藤原定家筆「集目録」である。この目録によって「冷泉家蔵草子目録」にあった「諸家集 百余家有之」の実体が明らかになつたのは喜ばしい(久保田淳氏に「重文新指定展の冷泉家本について」(『和歌史研究会会報』第92号)の紹介がある)。

もう一つの書籍目録は「鎌倉書写と推定される某氏蔵仏書目録一卷」(辻英子『日本感霊録の研究』)などその存在を知られていた仏書目録で、古書肆一誠堂の古書目録64号の巻頭を飾つた一卷の法名書籍目録(「五合書籍目録」が正しい)である。平安朝末期又は鎌倉初期写とされるこの仏書目録は、「法花経音義一帖匡房作」の如き佚書の名と、その完具な巻帙の数を記して貴重であつた。

これら古書籍目録は今日に伝存しないテキストの存在を証明するばかりでなく、古典籍の成立・撰者・伝来等について豊かな知見を与えてく

れるものである。松雲公の書留め「桑華書志」所載の「古蹟歌書目録」の分析から「今鏡」作者叔超説に有力な証拠を挙げられた太田晶二郎氏の業績(「桑華書志」所載「古蹟歌書目録」「今鏡」著作問題の一微証など(『日本文学士院紀要』第13巻3号)はその典型たり得よう。

『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録』には現在までに約三百数十点の書目(蔵書目録・書誌目録・著述目録・解題目録・書肆目録)が登載されている(猶、これら書目の定義については福田秀一氏の「古典研究資料としての書目」(『文献』第5号)を参照されたい)。以下、本誌に連載するものは、近世の禁裏本とその周辺に存在した四親王家並びに各宗門跡に関わる蔵書目録についての細やかな考察である。禁裏本を対象とした理由は、その蒐集や書写の対象となつた諸本が孰れも諸家の秘蔵にかかる優れた古本である点にある。

昨秋十月国立歴史民俗博物館に於て特別陳列された「高松宮禁裡本」は、有栖川宮第三代後西天皇皇子幸仁親王、第五代靈元天皇皇子職仁親

王が禁裏本の一部の委譲を受けたものを尙蔵したもので、元来は禁裏御文庫本と一体のものである。出陳の典籍は孰れも由緒のある珍籍ばかりであったが、「節季天象異名」と名付けられた一卷は「天文・曆法に関する書物か」とされていたが、冊子体裁の「文鳳抄」(菅原為長撰)の巻二を卷子に仕立てたものであった(本書は宮内庁書陵部で作成された『高松宮御所蔵旧有栖川宮御本マイクロフィルム目録』に「節季天象異名」とされているので、これを襲用したものであろう)。その後書陵部の允許を得て景照を閲した所、伝承筆者は後徳大寺実定で(箱書き)、巻首に「日野法界寺文庫」の印記があった。従来は「琵琶譜」断簡(後徳大寺実定の治承二年八月二十七日校合加點識語あり)が、法界寺文庫旧蔵本の唯一の断片とされていただけに驚きを禁じ得なかった。「玉葉」承安二年十二月八日条によれば、実定は「漢家本朝書抄物、其数数万余巻」に及ぶ蔵書家であったという。本書に「日野法界寺文庫」の印記のあること、またいかなる伝路を経て高松宮家に入ったかについて審かにし得ないが、禁裏本の由緒の古きことの好例であろう。

近世の禁裏本を研究することは、書陵部や東山御文庫に現在する伝本と照合して、伝本の系統を跡づけることのみを意味しない。近世初頭の禁裏を起点として、室町以前の典籍の伝存状態を窺い、同時代及び後代の文化との関わりを知ることが出来ると考えられる。また禁裏と対照的な文化圏である学林に於ける典籍の動向とも、対比的な視点から関係付けられると考える。かような目的のもとに和漢書の区別をすることなく、広く禁裏の書籍群について、蠅螂の斧を振り下ろしてみようと思う次第

である。

ところで禁裏の蔵書目録としては次に掲げるものが知られている。

大東急記念文庫蔵禁裡御蔵書目録

東山御文庫蔵禁裡御蔵書目録

東山御文庫蔵御書籍目録

東山御文庫蔵表御文庫御目録

宮内庁書陵部蔵書籍及掛物目録

これらは孰れも禁裏御文庫の纏った蔵書目録で貴重なものである(因に近世以前の宮中御書目録としては「本朝書籍目録」——最近の所功氏の説では安元大火の焼亡を免れた宮中蘭林坊・桂林坊所蔵の御書目録を基に十三世紀極初頭に作成されたとする(『本朝書籍目録考証』)に関する覚書(『国書逸文研究』第19号)——があるのみで応仁の乱でいかにどの禁書があったか定かではない)。就中、最も私達の関心を引くのは、万治四年正月の内裏炎上で灰燼に帰した禁裏本の書目を伝える大東急記念文庫蔵「禁裡御蔵書目録」である(同書の奥書に「右官本万治四年正月十五日禁中炎上之時焼亡云々」とある)。この目録については夙く芳賀幸四郎博士が資料として注目され、当時の「公家社会の教養と世界観」を考察されている(『東山文化の研究』所収)。また福田秀一氏に精緻な分析と考察があり(『大東急記念文庫蔵「禁裡御蔵書目録」について』「かがみ」第3号)、近時その影印が『大東急記念文庫善本叢刊近世篇』の書目集に収められたことは人も知る所である。本目録の価値については福田氏の御論に尽かされているので、次にその一部を引用しておく。

もう一つは、後に例を挙げて述べるやうに、本書には今日宮内庁

書陵部に、御所本もしくは禁裏本(俗に東山御文)の名で、孤本又

は稀本として伝存する作品の伝本を多数載せてゐるのであるが、本書によればそれらは多く文明頃の公卿の書写にかゝるものであるのに対し、現在書陵部本は大部分が寛文から元禄もしくはそれ以後の書写であつて、書籍として該当するものは殆どないことである。といふことは、やはり万治四年の火災で本書にのせる書籍の大部分が焼失したものと思はれる。(その後禁裏で、後西・靈元兩院以来、

丁度応仁文明の大乱後に本書に載せるやうな書籍が大がかりに書写

されたのと同様に、冷泉・三条西その他の公家の蔵書の大規模な書

写が行はれたことは、種々の点から推察されるが、前記「槐記」に

も見え、小野氏も前掲書(山崎云「日本文学史」に「日本書紀」を推す)に述べてをられると

ころである)。従つて、この推定によれば、本書に載せる書籍は書

陵部に現存する(一部は京都御所にも残してある由)禁裏本の直接

の祖本ではないことになり、現存本の伝来を直ちに示すことになら

なくて遺憾であるが、それにしても、この書目によつて、多数作品

の中世から近世にかけての享受の相が或る程度見当つけられる他、

室町時代の公家によつて行はれた大規模な古典書写が具体的に分り

(この点は芳賀氏の前記著書(山崎云「東山文化」)の意図であつた)、近

世初期の禁裏の蔵書の状況が明らかになる上に、巻冊数の明記によ

つて、その後散佚した作品の分量や、今日零本でしか伝らぬもの

の近世初期における状態が判明する等、その利用価値は少なくない

思ふのである。

本目録の内容について略述するならば、本目録は上下二冊より成り、上冊の前半部と以降とでその目録記述の姿勢を違へてゐる。即ち、上冊前半部は擔子・箱・長櫃又は棚別に収納される書籍毎にその擔子等の数が記されてゐる。これに対し上冊後半以下は上冊前半部に記された擔子・箱・長櫃・棚毎に収められてゐる(分類・排列にカテゴリーが看取される)書籍の細目を記してゐる。参考までにその概要を一覧してみると以下の如くである。

(上冊)

御檐子箱目録

經・史・集・韻書・仏書等

御檐子箱目録

下冊四季恋雜・黒檐子、国書

御棚之中・東方

叙位・除目・改元・即位記

同 角方

八講記等

同 北方

国史記録・諸家記録

御棚中・下段

聞書・注釈類・御道具

十三經第一―第九

詩・書・礼・易・春秋・左伝等注疏

同 第一―第十

孝經・四書五經・老莊・諸子

事類第一―第六

史部伝記類

同 第一―第十

集部詩文評論・子部小説家類・術数類

同 第一―第十

子部類書類・小説家類

同 第一―第九

子部類書類

同 第一―第十

史部雜史類・子部類書類

史漢第一、第十	史部編年類
廿一史	史部正史類
詩文第一、第六	集部別集類
同 第一、第九	集部總集類
同 第一、第十	集部總集類・詩文評論類
韻書第一、第九	經部小学類・子部農家医家類
録第一、第三	事寔部・禪宗部語録類
同第一、第九	史伝部・禪宗部語録・經疏
(下冊)	
春御檐子目録	私家集
夏御檐子目録	歌学書
秋御檐子目録	定数歌・御会和歌等
冬御檐子目録	歌合
恋御檐子目録	私撰集
雜御檐子目録	連歌・連歌集・連歌論書
黒御檐子第一	縁起・伝記類
同 第二	仏書
同 第三	宇津保物語 <small>(「世継目録」・「うつはの物語目録」を付す)</small>
同 第四	朗詠・往来・字書
同 第五	史書・有職等
同 第六	物語
同 第七	歴史物語・日記・紀行等

同 第八	軍記物語・合戦記等
同 第九	雜書
同 目録第十	著到歌・詠草その他
詩文抄之覺	漢詩文集及びその抄物等
詩文付史漢事類	同前
日本詩集等	標題の通り
不足御本御長檀目録	漢籍及び五山僧文集等
四諸五経類鈔	標題の通り <small>(抄物)</small>
和歌諸抄	歌書・物語及びその抄・注
蛤刺御檐子	歌書その他
沢瀉御箱之目録	漢籍・仏典等の聞書類
御絵目録	絵巻類
大黒菟	碁・象戯・双六関係
叙位付女叙位記	叙位・女叙位関係書
改元御記之内	改元記・改元部類記

本目録所収の漢籍については、まゝ「和古印」「唐古刊」「唐本」「朝鮮本」などの注記が施され、その刊写の別も判る場合が多い。これは例えば明版であるか、本邦旧伝の古鈔本であるかなどを識別するに役立つ指標である。同時に国書についても筆写者の注記がまゝ見受けられ、その注記を現存本と対照することによって、その素性・系統を明らかにすることが出来る(既に福田氏がその多くを前掲論文で説明されている)。調卷・異本の問題に関しても例えば宝物集・正法輪藏など注目さ

れる。

本目録に登載されるものの中に、不幸なことに万治の大火後、後西・靈元両天皇の復旧の努力にもかかわらず、終に補写のなされなかったものも多い。いわば室町時代の学芸の伝統が遮断された感がある。本目録の一つ一つの典籍の同定や存否については、次号以降に連載するが、予告的に一、二例示するならば、下冊の「詩文抄之覚」に見える「史漢夜話一冊」「同物語五冊」（本書は後崇光院より進上されたものである）などは、近年脚光を浴びている中世に於ける史記・漢書世界の理解と関わって甚だ興味深い。「史漢物語」については、近時一誠堂の古書目録に「史漢物語五卷 慶長七年梵釋等筆 梵釋自最奥書有 孤本」が出て話題を撒いたこと記憶に新しい。この他、所謂「四部ノ読書」についても、本目録には「季良抄蒙求問書也」や「和漢朗詠畧注仮名」「胡曾詩鈔」等の問書らしき書名も散見する。また宗論の方面からは「発名能可利父子」「塵滴問答」「念佛奇特集」「慈巧上人遊楽往生問答」など注目すべきものが多い。

かように本目録を窓として芳賀博士の如く前代の学芸を遡って離間見することも出来る。またその窓を通して眺められる中世世界は、公家社会の教養というものが、対極にあると思われる学林の教養などと想外に共通する部分が多いことをも示している。例えば黒田彰氏が「注釈書と学林―日意上人の場合―」（『国文学解釈と鑑賞』第51巻6号）で紹介された身延文庫蔵『意師記蔵書目録 高祖御筆御書註文 台家聖教注文日意所持分』の『台家聖教注文』の「要文分日意所持」「俗書分日意所持」「物語抄分 日意類聚分」に挙げられている書目にはほぼ対応する書名が、本

目録に検出されるのである（古活字（叡山版）のあったとされる「大明仁孝皇后勸善書」の如きも「勸善書」として本目録に載せられている）。

本目録は禁裏御文庫の目録ということでその収載する範囲は広範囲なものとなっているが、一方で公家社会全体にある程度共通する書目をも収めていることは言うまでもない。例えば次に同時代の宮家桂宮智仁親王の御蔵書目を紹介して、宮家の文庫の性格が、禁裏本と一体なものであることを証してみたいと思う（その書目の大部分を本稿末尾の索引によって引き当てることが出来るであろう）。

ここに紹介する宮内庁書陵部蔵「桂宮書籍目録」（四五六一―五三）は縦七・五櫃、横廿一・四櫃の横長本で、厚手の楮紙を十一枚重ね右端二箇所を紙の組み紐で綴じたものである。外題「桂宮書籍目録」を除き、智仁親王の自筆。内題は無く第二丁表より九に十字、菱十字、輪違い印などで分類された書名が、間に白丁を混え墨付十六丁に記されている（毎葉行数不等、無界である）。左にその翻刻を掲げるが、翻字に際しては可能な限り原本の真を伝えるよう、用字（誤字）・行格・改丁等原本通りとし、原本の状態を知ることが出来るよう（）内に注記を施した。

①

元亨釋書	十冊
氏族排韻	八冊
大平記	十九 <small>不足</small> 冊
世説	七

韻府	廿冊	◆	已上	十四	東坡	十七	三國志	十二	曾我物語	二十三	天下白	二	和漢合運圖	六	帝鑑圖說	二十	佛祖通載	二十四	通鑑大全	二	孟子	三	古尺牘	二	つれく草	五	同	漢玉篇	二	十九史略	二	古文真宝	十九
----	----	---	----	----	----	----	-----	----	------	-----	-----	---	-------	---	------	----	------	-----	------	---	----	---	-----	---	------	---	---	-----	---	------	---	------	----

東坡鈔	九	傳燈錄	十五	詩林正宗	四	蒙求	六	百將傳	十一	老子	二	史記	七	周易	三	左傳詳節	十一	詩大文	二	玉屑	十	貞觀政要	八	◆	山谷	十二	史記	五十一	東坡	十三	五經大全	五十一	文選	三十一	四書大全	十九	柳文	六	大明一統志	四十
-----	---	-----	----	------	---	----	---	-----	----	----	---	----	---	----	---	------	----	-----	---	----	---	------	---	---	----	----	----	-----	----	----	------	-----	----	-----	------	----	----	---	-------	----

文章正宗	十	海篇心鏡	六	廣韻	五	杜子美	八	洪武正韻	六	蘇集	八	史記奇編	十四	韓文	十五	李白	十	山谷	十	七書	七	管子	十七	事文類聚	六十	翰墨全書	廿九	千字文	二	職源抄	二	周易	六	元亭尺書	十	左傳	十四	四書	九	十九史略	五
------	---	------	---	----	---	-----	---	------	---	----	---	------	----	----	----	----	---	----	---	----	---	----	----	------	----	------	----	-----	---	-----	---	----	---	------	---	----	----	----	---	------	---

┌
2才

杜子美	十一	つれく草	二	撰集抄	三	史記列傳	三	對類	四	碧巖	五	聯珠詩格	五	資治通鑑	九	管子	二	歷朝捷錄	二冊	①	己上	五	秦少徵	五	禮部韻	五	對類	四	性理大全	十一	列國傳	七	詩学大成	五	山谷刀筆	四	西遊記	十八	文粹	八
-----	----	------	---	-----	---	------	---	----	---	----	---	------	---	------	---	----	---	------	----	---	----	---	-----	---	-----	---	----	---	------	----	-----	---	------	---	------	---	-----	----	----	---

┌
2ウ

草書韻會	二
虎関年譜	一
蒙求	三
大光明蔵	三
草堂詩餘	三
七書正義	四
孟子注本	全
韻鏡	二
略韻	一
張光弼詩拔書	一
毛晃	五
胡曾詠史	一
陳無已	三
十牛圖	一
史学提要	一
空華外集	一
左傳	はぼん
散語	一
江湖風月集	二
唐詩選註	四
学府全編	八

┌
才3

補註蒙求	一
列國志傳	一
雪心賦	一
孟子	一
列仙傳	二
釈名	一
宇治大納言物語	二
式目	一
剪燈新話	三
曆正通	二
長恨歌	一
論語	一
中庸	一
大学	一
孝經	一
人天眼目	二
荀子	一
紆綉	六
漢書	上 下
日本記	上 下
同	二

┌
37

取アツメ本 十一
色々巻物共アリ

已上

(白丁)

❀ たんす

論語書入有 一冊

古文真宝点有 二冊

嘉章案

論語抄 一冊

古文真宝抄第一

經文哥 三冊

宗派 一冊

杜子美 四冊

日本記 二冊

同抄 一冊

三鉢詩抄中 一冊

哥林抄

三代集 一冊

尚書 一冊

同抄 一冊

┌
4ウ
└
4オ

┌
5オ

拾遺愚草注 一冊

山谷 表紙ナシ 四冊

逍遙院哥 一冊

連哥指合抄 一冊

小朗詠 一冊

小切双紙 雑

❀ たんす

論語抄

也足軒哥

遙遙院哥

稱名院哥

髮中龍

拾遺愚草 一冊

古今六帖

皇儀

職原抄

┌
5ウ

拾芥

禁裡御著到拔書

伊勢物語

聽雪集 一冊

藻塩草

闕疑抄	二		
詠歌大概抄	二		
草庵集	一		
塵芥	二		
雑々			
韻府柔長老	二		
		「	6才
①			
紹巴千句		元政 [?]	五十首
御室五十首		藤河	百首
最明寺哥		哥林	抄
草庵集一		寶治	百首三
年中行事		禁裡	千首
幽齋道記		万字	抄
平仄		中庸	
東坡抄一		新古今注	二
万葉五抄		不審詞	
公事哥合		千首	
宗長道記		七百首	
拾遺不審		土御門院御集	
百人一首抄		七玉	
哥合		明應哥	

雅世集		三光院哥	二冊
朗詠抄二		百寮	
史記抄二		古事對	
三百詩注二		三鉢詩抄二	
三鉢詩上注本		韻玉二	
錦繡段抄二		曾嶺集	
		「	6ウ
大学抄		職源抄注	
花上集		禁秘御抄	
庭訓		中庸	
三鉢詩三		源氏年立	
東坡句		古文真宝	
讀撰吟集五		三重韻	
		「	7才
(白丁)		「	7才
うらのくらへ入覚			
花たんす			
三鉢詩注二部		家記	
廿一代集女哥		遊仙窟	
論語二		行幸記	
廿四孝注		雑々	
名所哥		草根集 [?]	

玉府禪	小双紙色々
入修禪國集	横双紙色々
月	
雑々	小双紙
竹取	唐才子傳
長恨哥抄	千載集二
飭抄	将棊經
天	
新源氏	太平記
雑々双紙	「8オ
信	
半切双紙	金葉
色紙	長恨哥
古今着到	堀河院百首
一字抄	童子訓
手取五十首	玉吟
韻鏡	和玉篇
茶經二	
礼	
春秋一冊	周易一
毛詩一	尚書一

礼記四	説文二
孟子三	楚門集二
ますか、み六冊 <small>（一冊は智）</small>	たんす二入
智	
二八明題集	千五百番哥合十
後撰和哥下	六百番哥合三
後拾遺集下	
長たんす	
保元	平治
平家物語	抄本
謠抄	「8ウ
白氏文集箱一	
謠本箱一	
色紙文から一	
めん箱二	
以上箱数十二	
元和六年三月十日	
(白丁)	「9オ
ななかひつ	「9ウ
古事拔書	
(以下三行に墨付き走る)	

古明略韻たんす

源氏抄□□禪閣たんす

源氏抄□□たんす

色紙□□文から

六合勅本

仁たんす

花たんす

井一代拔書文から

一文字たんす 一

文から

┌
10才

本目録は「元和六年三月十日」の日付を有することから、元和六年当時の桂宮に於ける蔵書内容を示すものとして珍重せられる。(成稿後、本目録と密接な関係にある「智仁親王江戸道中御所持品目録」(桂一〇二八)のあることを知った)本目録を以て智仁親王の桂宮御所蔵の書籍類の全貌を究め得るものでもとよらないが、後述の如く、書陵部に伝存する宮家蔵書群の考察や、散逸書目の復元に貴重な資料たり得るものである。また既に近世出版文化の洗礼を受けた書籍目録として、その方面の多義的な利用の期待されるものでもある。更に桂宮家の蔵書目録として著名な「桂宮歌書目録」(寛永十六年八月成立)との関係についても興味深い目録と言いうことが出来る(丹念に検討して行けば興味の所在に従って、意外に豊かな情報を得ることが出来る)。

本目録登載典籍と現在書陵部蔵の桂宮本の伝存状態との関係は、猶詳細な検討を必要とするが、例えば「嘉章案」という有職書は、「嘉章案」(五〇三―一四九)として書陵部に智仁親王筆本が残されている。また書写本として「草庵集 一」に該当するものとして、智仁親王筆

「草庵集」(但し二冊本)が現存する(五一―一十一)。その他にも、土門御院御集元和二年智仁親王筆写(五一―一九)

筋抄(三五三―二四三)

ますかがみ七冊本(三五三―一七六)

二八明題集八冊智仁親王御筆等(五一〇―三二)

千五百番歌合十冊中院通勝等写(五一〇―五八)

六百番歌合三冊(五一〇―四八)

など、本目録に記される書目の今日に伝わりと推定されるものも少くない。但し本目録は親王四十二才の元和六年までの宮家蔵書(の一部)目録であるから、寛永六年五十歳で薨せられるまで、古典の蒐集・新写に熱心であった智仁親王家御蔵書の形成期の一齣を伝えていると見た方が適切である。例えば小高道子氏が紹介せられた慶長七年十一月十三日付の「古今集伝受之箱目録」については、本目録には該当するものが見えない(小高道子氏「御所伝受の背景について―古今伝受後の智仁親王」『近世文芸』35号)。

次に本目録に登載される漢籍に目を転ずるならば

百将伝 十卷宗張預撰明統喬新注明趙光裕評明万曆刊

詩林正宗 明余象斗撰明李廷機校

史記奇編 十四卷明陳仁錫撰鐘惺編定

山谷老人刀筆 二十卷宋黃庭堅明弘治刊本明万曆七刊

歷朝捷錄 二卷明顧充撰(新編)歷朝捷錄全編四卷明周昌年

など明版も多く録されるが、近世初頭の出版文化との関りで考えると、

古活字版(中に五山版であるかも知れぬものあり)が多数含まれている

可能性が高い。二、三例示するならば、仏書では

元亨釈書 三十卷十冊慶長四年如庵宗乾刊等

仏祖歴代通載 二十二卷十冊慶長十七年本国寺版

倭漢皇統編年合運図 二卷慶長五年要法寺版

が、古活字版であることが考えられる。漢籍では、

標題除状蒙求 三卷三冊慶長元年甫安版

貞觀政要 十卷十冊慶長五年伏見版

帝王図説 六卷六冊慶長十一年刊秀頼版

纂圖附音増広古注千字文 三卷一冊慶長十三年瀬轍書院刊

諸儒註解古文真宝前集 十卷魁本大字諸儒箋解古文真宝後集 十卷

慶長十四年刊

将基経 慶長十九年頃刊

古今歴代十九史略通考 十四卷十四冊万曆九年朝鮮弘文館本翻印

新編類族大全 十集十冊元和五年刊

新編古今事文類聚 元和七年刊

などが古活字版である可能性が高いものである(殊に「古今事文類聚」

は六十冊の注記から古活字版であること動かず、従って『増補古活字版

の研究』に同書の刊行を元和七年刊とするも、それ以前に刊行のあったことが知られるのである)。古活版漢籍については、本目録に医書の類が見られないことなどを不審とするが、右に挙げたもの以外にも猶多くの古活字版の含まれることが予想される。

国書についても、二、三可能性のあるものを挙げるならば、

太平記 慶長七年刊五十川了庵所印

職原抄 慶長勅版伏見宮御版

徒然草 慶長中刊本・嵯峨本・鳥丸本

保元平治 三卷三冊慶長中刊

謡抄 守清本

などが考えられる。「謡抄」の守清本については従来刊年は慶長後半期とされていたが、本目録登載本が仮に同書であるとするならば、刊年確定の傍証たり得よう。

次に本目録登載本の中に智仁親王が書留められた講釈の聞書がある可能性が高いと考えられる。智仁親王には、慶長元年から本目録が記された元和六年の間の事歴を記された「智仁親王御年歴」一軸がある。『書陵部紀要』20号に嗣永芳照氏の翻刻・解題がある。これは慶長十八年の假名具注歴を繚して紙背に墨界を施し、三行を一ケ年分として、年次・年齢・月日次・本文事項(学事の事歴を中心とした御動静、宮家並びに禁裡・世上の事件を簡潔に注す)順序に記されたものである。この「御年歴」は古今伝受の所謂御所伝受資料としても貴重であるが(慶長元年十八才連歌講釈幽齋二聞雨中吟未來記講説幽齋聞)、差し当り本目録

との関りに注目すると、以下の学事を拾うことが出来る。

慶長十八年八月九日、宗碕講釈、同十八日、韓長老東坡講釈。

同十一年八月十一日、同十四日ヨリ甫長老ニ古文真宝講談聞、十一月、

柔長老章句漢和会(略)十一月十四日、長老ニ古文真宝講釈始而聽

聞ス

同十二年八月三日、甫長老ニ三休詩聽聞開始ム八月九月中三日

ニ一度ツ、講釈アリ、

同十四年八月十日、色・常光院・暉長老・阿野四吟、宗碕三略之

講釈聞、(略)十一月十二日、船橋秀賢中庸講釈聞

同十八年八月九日、宗碕講釈、八月十八日、韓長老東坡講釈

聞、

元和元年八月八日ヨリ孟子之講釈宗碕ニ聞、

同二年八月五日二日、宗碕ニ史記之講釈聽聞ス

同三年八月九日十三日、於竹門跡惠心院法花講尺聽聞ス

同四年四月十八日、於禁裡伝長老錦繡段御講釈、聽聞伺公ス

例えば慶長十八年八月十八日の「韓長老東坡講釈」は南禪寺の文英清韓による講釈と考えられ、本目録に「東坡抄一」や「東坡句」の如き抄物・聞書と覚しき書名の存することと照合している。一方、本目録の方から見ると「韻府柔長老」とあって、柔長老なる学僧(剛外令柔か)の名を注した書名が見える(「禁裡御藏書目録」には「韻府拔萃」の書名あり)。

「御年歴」に見える学事と本目録にはかように少なからぬ関連が指摘

できるように思われ、宮内庁書陵部等に現存する、

聞書(二冊)

聽書拔書類(六卷六冊)

聽書類(十一冊)

源氏物語聞書(慶長十三年曼殊院藏)

源氏物語諸註拔書并聞書

日本書記口伝聞書(一軸)

などとの関係も精査されなければならない。

本目録が果たしていかなる意図のもとに編まれたものか「御年歴」にも明らかでない。奥にある「元和六年三月十日」が何らかの必要に迫られ藏書の点検がなされた日時を示すと考えると、「御年歴」の元和六年春の条に、

二月廿九日申刻より洛中大火事

三月四日、洛中又火事、日夜火をつくる、洛中不残ゆかをあげ、番をする也

とあることが注意せられる。「土御門泰重卿記」によれば、洛中に頻繁に火災があったために禁裏にあっても三月五日書籍奉行等をして、禁中御蔵の書籍を巽御蔵に移さしめている。

三月五日癸未。晴。從禁中書籍奉行衆召。則朝參申候。御藏書籍共御殿離タル巽御蔵入替申候。終日骨折申候、召候衆廿人余アリ。

六日甲申。晴。召候。朝參。今日も種々御道具共入申候。今日も火

付申候由承畢。今日中院・河野書籍奉行ハ不殘伺公也。

臆測に過ぎないが、禁中に於けるかような措置に連動して、桂宮に於ても火災に備えるために何らかの書物の移動がなされたのではあるまいかと考える。本目録の「うらのくらへ入覚」とあるのも単なる書物点検でないことを物語っているよう。

ともあれ本目録は智仁親王によって形成充実されていく桂宮本の比較的初原の書目を伝えているものと考えられる。単に智仁親王の御撰本や文芸活動を窺う上で有力な資料であるばかりでなく、元和頃迄の古活字版の出版事情を考察する上でも、堂上の学芸を窺う上でも、多様な価値を持つものと言うべきである。また「禁裡御蔵書目録」と密接な関係を持つ資料として見逃すことの出来ないものである。

以上、本稿では禁裏本の周辺にある宮家蔵書目録をとりあげて卑見を述べた。桂宮家以外にも伏見宮家本の目録としては著名な「看聞御記紙背書籍目録」以下に、

伏見宮雑文書目録 南北朝写一卷

伏見宮御記録類目録 江戸末写一冊

伏見宮蔵書目録 江戸末写三冊

伏見宮御記録目録 谷森善臣写一冊

伏見殿文庫記録目録 靈元天皇宸筆一冊

などがあり伏見宮伝来書目についても続稿で考察を加えて行きたい。

〔付記〕 本稿を草すに際して、福田秀一・渡辺守邦両先生より多大の

啓沃を蒙った。福田先生からは大東急記念文庫蔵「禁裡御蔵書目録」の手写本や東山御文庫蔵「禁裡御蔵書目録」の写真の貸与を載いた。また渡辺先生からは近著『古活字版伝記』の惠賜を受け、更に古活字版や整版についての万般の示教を戴いた。本稿に十分盛ることの出来なかったこれらの学恩は次号以下に報いたく思うものである。

末尾になったが『桂宮書籍目録』の翻刻や桂宮本の多くの典籍の披閲をお許し下された宮内庁書陵部に篤くお礼申し上げる。

禁裡御蔵書目録書名索引(稿)

凡 例

本索引は『大東（記）善本叢刊近世篇11』に影印される「禁裡御蔵書目録」の書名索引である。索引作成の要領は以下の通りとした。

一、和書・漢籍・仏書の別を立てず、全て五十音順に配列した。

一、書名の下の数字は影印本の頁数を示す。

()に括った漢数字は、該頁内に同一書名が複数検出されることを意味する。

一、書名の掲出に際し、合冊の場合は付録の書名も一項を立てるなど、書名は可能な限り多く採った。また同名異書の多い場合、識別可能な注記は残した。

一、伝承筆者を含む書写者及び和古印・朝鮮本・唐古刊などの注記は、本索引ではひとまず割愛した。

一、難訓で書名の判じ難いものは末尾に一括した。

猶、55頁の「二十二史」の細目、139頁「うつほ物語」の巻名は省略し、175頁の「末摘

花」「松風」は「源氏物語」と見做すこととした。また21頁「かけ硯」「謚箱」等、書籍とは見做し難いものも一応一項を設けた。

あ

赤染衛門集	93	和泉式部集	93
赤人集	91	惟清抄	171
秋津嶋物語	144	伊勢集	91
阿字観口決	133	伊勢大輔集	93
明日香井集	95	伊勢物語	99 145 (二) 172
飛鳥井大納言入道点 東鑑	109 12	伊勢物語歌五文字	171
あらおこかまし——	181	伊勢物語系圖	171 (二)
有房中将集	94	伊勢物語鈔	171
有明繪	152	伊勢物語注	171
鴉鷲合戦記	152	伊勢物語直解	171
安願集	13	伊勢物語女房繪	182
安心起行抄	136	伊勢物語不審之詞略注	171
安鎮祭文 両度	13	伊勢物語略鈔	171
い		伊勢大和	98
家隆卿家集	96	いその玉藻	106
		一華五葉集	88

一字題歌	108	韻會	6	113
一途	136	韻會摘要	73	114
一切経目錄	80	韻會小補	73	115
一紙品定	127	韻學澗海	75	115
一子傳	102	韻鑑序	75	115
一滴知大海味四靈	79	韻鏡	75	115
一統志略	45	韻鏡鈔	163	115
一遍上人語	135	韻鏡秘決	163	116
一遍上人詞	133	韻語陽秋	38	112
一遍上人法語	135	韻府	73	114
一峯先生文集	57	韻府群玉	73	114
一品経和歌	109	韻府拔萃	168	114
今は昔てんちく――	181	韻府本義	73	157
今物語	147(二)	う		13
夷門廣牘	49	うへのすかたをみよ――	181	9
いらさる御道具	14	右京集	95	176
イロハ	76	宇治大納言物語	146	172(三)
色葉聞書	142	哥合 建保二年同五年 文永二年	111	172
色葉和歌	103	哥合 文明十年九月 十一月卅日	113	139
石清水若宮哥合	111	哥合 明應元年十月廿八日	113	140
石間集	117	哥合 後成恩寺殿判詞	113	183(二)
寅闇四六集	167			93
		馬内侍集		
		歌枕名寄		
		歌枕名寄目錄略		
		雨の中吟		
		宇津保物語		
		うつほの物語目錄		
		馬造		
		歌合當座 建保四年八月 二十三日付同二十四日		
		歌合類聚 五ヶ度		
		歌合類聚 八ヶ度		
		右大臣家哥合 治承三年		
		謡本注		
		謡本		
		百番		
		同二八		
		御裳濯宮川水無瀬殿 恋十五首		
		定綱朝臣廣綱朝臣両度		
		経盛朝臣家右大臣家月輪		
		家成卿家清輔朝臣家		
		弘長二年九月		
		判詞為廣		

五蘭盆經疏	89	詠草 後土御門院 逍遙院筆	91		76
鱗形紋	14	詠草 逍遙院点	156	圓席書	179
雲庵真淨禪師錄	79	詠草 永	156	燕居筆記	42
雲臥紀談	88	詠百首秀哥	156	園太記	17
芸局秘書	39	惠雲院宗牧兩吟有注龍山宗養兩吟	125	延文百首	104
雲圖抄	186	易	24	圓融院扇合	146
雲峯外集	88	易御道具	11	圓融の御時	181
雲門語上下	86	易經	25		
元		易書	25	お	
繪	13	易正義	165	老のくりこと	128
詠歌一鉢	98	易便讀標旨	25	老のすさみ	128
永嘉朱先生通鑑	53	惠西巖錄	88	老のはな かに花さす事	153
詠歌大概	98	惠心院年譜	133	押韻測海	75
詠歌大概抄	172	悦目抄	99	往因鈔	136
詠歌大概注	172	淮南鴻烈	31	王弼州先生史料纂	59
栄雅通秀詠哥	155	琬琰清音	63	興義抄	100 (二)
榮花物語	10	圓覺經	7	王荆文公詩	71
榮花物語抄	173	簡簡集	68	王狀元 講尺	181
永享十三記	186	延喜式	11	本端云於小御所堯西堂	
影供哥合 仙洞	112	偃溪錄	77	往生拾因一帖	134
嬰兒訓 改元記	189	遠見抄	99	往生要集	133
		圓珠經	29 (二)	往生礼讚注	133
				横川録	88

王權玉集	71	折本無外題	改號錄	189
應仁三年三月百首	107	御哥合	介錯佛師繪詞	131
王年代記	176	音義	開山御一期之記錄	137
歐陽文集	57 (二)	御聞書	懷紙之寫	156
大江千里集	92	御聞書共	海上仙方	76
大鏡	147 (二)	温舊知新	海藏韻略	176
大谷法語	135	温古知新	懷必	179
大原千句	122	園城寺緣起	懷風藻	163
大文箱	14	遠所御哥合	開福錄	78
大間	15	遠情鈔	外篇	75
御経紅葉の紋	13	御拔書	海篇心鏡	73
奥書安件	179		海篇正鶴	73
小倉山庄和歌抄	172	か	戒法繪之詞	131
小倉四吟等	121		豈菀集	169
おちくほ	145	海會和尚語錄	海錄碎事	167 168 (二)
小野宮哥合	116	開元遺事	海錄碎事拔書	168
御室五十首	106	改元記	河海	19
御室撰哥合	114	改元部類記	加階例共	187
思儘日記	149	改元部類記	柿本集	91
澤瀉紋	14	改元部類記	銚箱	21
御湯殿之上記	11	改元部類記	額寫	20 (二)
折句和歌	109	改元部類記	神楽岡縁起	132
		寛喜平戸記 貞永中光記		
		中右御記		
		十八公		
		久壽以後十八公		
		壽永三以後		
		青表紙		
		嘉禎二年七月		
		改元記		
		15 (二)		
		189		
		45		
		168		
		77		
		180		
		172		
		112		
		129		
		142		
		189		
		14		
		179 180 (二)		
		151		
		113		
		130		

金澤入道源意独吟	121	寒山子	57	甘露寺記	17
桂地蔵記	130	簡齋詩	57	観楊易數	25
合璧集 天文二十四所之會	118	管絃の繪	182	翰墨全書	45 178
活祖傳	176	菅家御集	92	寛平哥合	111
かたわらの繪	181	観経直談抄	133	韓非子	31
賈大傳新書	32	漢魏六朝諸家文集	62	韓文	69 (二)
哥仙の繪	182 (二)	勸学文	67 (二)	観音南遊傳	79
歌仙	20	願已満足経	7	観音像	12
和長卿詠草	158	菅	129	観念法門	133
春日大明神御託宣記	129	歌林良材集	101	卷頭歌	98
春日社哥合	112	唐物語	149	閑亭後世物語	137
花上集	167	唐鏡	149	勸善書	38
歌書不足	10	鴨長明無名抄	100	漢書評林	51
歌書之類	19	鴨長明集	95	漢書帝紀	165
歌書諸抄	19	鴨長明記	148	漢書抄	162
歌書集	107	賀茂社勸進法楽歌	109	漢雋	44
歌書 後奈良院宸翰	91	龜山殿七首	104	勸修念佛記	135
嘉元百首	104	かめに花をさす書籍	13	勸修寺家記	17
蜻蛉日記	147	家法詩抄	177	韓詩外傳	33
かけ硯	20 (二)	家法詩賢傳畧	161	管子	31
掛繪	12	兼澄集	94	寒山墓艸	57
鶴林玉露	38	假名遣	174	元三大師	12

希逸莊子
 聞書一結
 聞書抄等
 菊紋文匣
 二月廿一日—
 起信論
 起信論疏
 希聖語錄
 龜藏錄
 義楚六帖
 於北野千句
 北野宮物語
 北山女院御幸記
 厨中述意鈔
 譬珠抄
 橘州文集
 義堂文集
 婦命本願抄上
 器朴論
 久阿弥繪詞

177
 180
 178
 32
 久安百首 第二度
 九百韻
 居易歌
 教化集
 京華集
 堯西堂講尺
 14
 凶事方
 181
 經釈取合
 78
 卿相侍臣哥合 建永
 78
 胸中抄
 88
 夾註輔教論
 77
 曉風抄
 87
 刑部卿頼輔集
 122
 享祿二年日記奧哥有
 12
 御會始 天文
 148
 居家必用
 136
 玉海
 136
 玉函集
 88
 玉吟
 168
 玉髓
 135
 玉篇
 80
 棘門集
 152

104
 清輔朝臣 秘抄
 123
 清輔朝臣集
 67
 許白雲詩集
 134
 舉葉玄珠
 167
 魚魯
 180
 漁話前後
 16
 儀礼
 137
 桐火桶
 112
 切目王子繪詞
 126
 貴嶺問答
 78
 きれく
 161
 金槐集
 94
 金玉哥合
 156
 金玉集
 155
 今古連哥十六百韻
 47
 禽獸
 48
 錦繡段 注抜
 166
 錦繡段抄
 96
 近思錄
 43
 錦箋記
 74 (二)
 公忠集
 159
 禁中御會歌

108
 92
 42
 33
 159
 177
 176
 123
 174
 111
 95
 157
 141
 152
 102
 24
 38
 15
 47
 58
 94
 99

禁中御會歌	言繼言經兩御筆	108	虎丘隆和尚錄	80	黒谷聖人傳繪詞	135
錦肺繡肝		66	公卿補任	10(二)	群書集事洵海	44
禁秘抄		143	愚見	101	群書治要	6
今文孝經		27	愚見抄	171	君臣圖像	35
金壁大全		46	公事五十番哥合	114		
禁法和漢部類抄		157	俱舍	7	け	
近來風鉢		100	愚聚抄	174	瓊玉和歌集	96
禁裏哥合	康正元年 逍遙院筆	111	九十賀の記	99	經國集	163
禁裏御會御懷紙		155	九条右丞相集	92	稽古録	52
禁裏御千句		122	具書畧鈔	136	啓劄洵海	165
禁裏月次御哥	享徳二同三	155	句双紙	179	經史海篇	74
禁裏月次御會	寛正四	108	愚草之一葉	176	經史海篇直音	73
錦和抄		159	句題百首	106	系圖	10 15
			頓阿		慶長十九年之文	168
			口傳秘決	102	慶長六年五月六日	185
			愚昧記	17	叙位記	
			熊野勸進帳	129	圓範	42
愚庵集		79	愚問賢注	98 101	桂譜	39
空華集		168	虞伯生集	68	藝圃球琅	46
空東山語録		87	愚秘抄	102	桂明鈔	174
瞿詠蔡和集		66	公羊傳	26	啓蒙對	39
愚詠		156	鞍馬寺縁起	129	敬和堂集	46
愚詠二百首		158	黒キ箱	21	擊竈	127
愚音抄		101				

擊壤集	58	源信僧都法文	133	網鑑纂要	54
結緣經和哥	109	源大府卿集	95	網鑑實錄	54
月庵集	79	建仁元年撰哥合	112	網鑑精要	54
闕疑抄	171	源聞秘抄	145	網鑑正要	54
月江錄	87	元風雅	65	網鑑大成	53
月石谿	77	源平盛衰記	11(二)	高皇帝御製文集	60
蹴鞠抄	13	元豊類聚	66	孝經 首書	169
賢愚經十一	80	建保百首	104	孝經鈔	169(三)
玄々集	98	建保名所百首	104	江湖紀聞	46
元亨釋書	77	源流至論	44	江西詩	167
萱齋院御集	95	二		后山詩	57
源三位頼政集	95			黄山谷抄	178
源氏	20 175(三)	恋路ゆかしき大将	145	香山長恨歌抄	161
源氏伊勢物語 御聞書	179	小大君集	93	香山老五妃曲	67
源氏御聞書	19	小折紙	15	孔子家語	31 32
源氏抄	19(二)	五音篇海	75	黄氏日抄	48
元史節要	52	廣韻	74	黄氏日抄拔萃	168
源氏物語 河内本	10	耕雲千首	105	江次第	11
源氏物語	10(三) 145(二)	公宴着到百首	156	甲秀苑集	59
顯照法橋陳状	102	廣雅	30	口称口蜜	134
憲章錄	40	皇華集	66	江塵灰集	96
幻住幻語	84	網鑑	54	黄先生 聞書	178

孔叢子	33	皇明要錄	40	古今史鑑	54
高祖夢	135	高野大師三國傳	131	古今集	175 (二)
光寧院五十首	106	高野明遍撰撰集	135	古今抄	20
黃太史鈔	162	孝養集	134	古今人物論	37
孝大論孟中	29	廣輿記	45	古今通略	54
江談抄	164	江吏部集	164	古今列女傳	36
皇朝類苑	6 50	恒例臨時	16	古今連歌共	125
校定清規	77	吳越春秋	54	古今六帖	9 (二)
廣燈錄	83	枯崖漫錄	87	谷響集	136
皇年代記畧頌	143	粉河觀音緣起繪詞	130	國語抄	40
廣柏千句	122	後漢書	5	國語評苑	40
廣博物志	45	後漢書 不足冊卷	6	國史部類	16
洪武正韻	75	古欄畧韻	7	國朝文類	62
香文本	173	碁經	183	國風衍義	23
高峰語錄	77	五經	5	穀梁傳	26
光明峯寺撰政治家哥合	114	五經三注	30	後光嚴院御百首	105
皇明英列傳	35	五經史記大全	52	ここかしの連哥和かん	124
皇明開運	41	五經集注	30	後小松院御百首	105
皇明記	40	五經正文	26	古御連歌會紙	126
皇明詩	65	五經大全	5	古今著聞集	11
皇明續記	40	五經府	27	五枝花	166
皇明通紀	40	五經旁訓	27	小侍從集	95

古事談	143	五代帝王物語	147	159
五社百首	105	御著到	155	61
後拾遺往生傳	130	古注蒙求	36	120
五首哥合	112	五燈會元	83	126
孤樹哀談	41	語灯録	134	12
後白河院五十御賀記	148	後鳥羽院御集	91	117
鼓吹續編	63	後鳥羽院御集 但百首也	105	100
後崇光院御詠草	109	後鳥羽院御消息	100	13
後崇光院御製	125	詞不審聞書	126	93
五星扶周傳	35	詞乃分別事	173	77
後撰集	175 (二)	古廿一代集	9	137
胡曾詠史詩	67	虛白堂風雅集	59	102 (二)
胡曾詩	36	孤白文集	40	132
胡曾詩鈔	160	後花園御製	158	
御即位記	16 (二)	五百番哥合	111	
御即位叙位可叙輩	187	古文孝經	27 (四)	78
後村居士集	71	古文孝經聞書	169	16
五代簡要	174	古文尚書	23	12
五代史	51	古文正宗	61	95
五代集歌枕	118	古文真寶	6 (三)	100
御代々御記	18	古文真寶聞書	177	10
御代々御詠草	11	古文真寶抄	159	65
		才調集		
		西域記惣論		
		西域記惣論		
		西宮北山等類		
		西行繪		
		西行集		
		西行談抄		
		齋宮補任		
		金藏寺勸進帳		
		言塵集		
		金剛般若波羅蜜經		
		金剛幢		
		惟成弁集		
		御領所以下		
		古來風躰		
		後葉和哥集		
		御本尊繪		
		小本		
		御發句		
		古文類鈔		
		古文真寶彭叔抄		

齊民要術	14	雜々	17	山庵雜錄	86
西遊記	80	雜々記 恒例	16	山家集	95
堺合戦記	151	雜々秘書	134	撰花集	167
榊葉日記	148	雜々臨時	16	三家錄	86
相模集	93	雜々和哥抄	156	三家錄拔萃	86
嵯峨物語	149	雜書	153	三吟千句	121
さかゆく花上	148	雜書之類	19	三愚一賢	134
前撰政家哥合 嘉吉三年	114	薩天錫	58	三賢文宗白集	59
沙玉和哥集	117	雜毒海	85	三教一致	37
策字統宗	46	左傳	5 28	三教出興頌	78
作者部類新撰免玖波	128	左傳聞書	177	三五記	102
朔旦叙位次第	185	左傳三注評林	26	山谷	178
桜の紋	13	左傳直解	26 (二)	山谷詩 外別	70
さころも	145 (二)	左傳評節	26	山谷鈔	162 (二)
狭衣系圖	173	左傳分類	26	山谷精華	70
狭衣抄	173	讚岐集	95	三國志	41 (二) 51
さゝめ言	126	讚岐日記	147	三國傳	137
勝説	161	実國家哥合 嘉應二五廿九	115	三十三朝史綱紀要	54
覚綱集	93	實隆卿百首 兩度分	106	三十首点取和歌	106
雜花	162	實隆卿詠百首共	107	三十番哥合 判詞頓阿	115
薩戒記	17	さ夜のねさめ	149	三十六人哥合	99
雜言奉和	163	猿丸大夫集	91	三条右大臣集	92

慈巧上人遊樂往生問答	136	師說自集	102	自然齋三發句	120
四皓遊戲圖	183	師說自見集	102	信太社	105
自讚歌	99	詩選	63	芝草	128
自讚歌注	172	詩宗集韻	165	詩文抄	21 (二)
四書	5 (二)	次第	16	事文類聚	44 178
四書開心	30	四大家	70 (二)	事文類聚遺集	44
四書五經	5	四體千字文	36	事文類聚啓筭	44
四書五經抄	21	四代相承安心禪勝房法語	135	事文類聚要玄	44
四書五經圖經	30	時代不同哥合	116 181 182	詩法源流	59
四書集注	29	下草 宗祇法師連歌	125	持法華問答抄	133
四書大全	5 30 (二)	順集	92	除目	15
四書通證	29	七玉集	104	除日記	15
四書發明	5	七子詩集	65	私譯 焦尾帚	178
四書百家問答	30	七書	33	釋氏稽古錄	87
資治通鑑	53	七書正義	33	釋氏通鑑	84
資治通鑑大全	53	七夕御哥合	113	釋氏要覽	84
慈照院殿預修大祥忌隣座	134	七夕御懷紙拔書万葉集	155	借聲堂 非一人詩	58
四糸局口傳	100	七天駒繪之詞	152	爵里詳節	63
思女集	93	侍中群要	11	寂蓮集	95
種々和哥写 修理大夫義貞	156	自徵抄	136	沙石集	153
詩人玉屑	38	詩調連腋	65	釋門排韻	84
指雪齋發句帳	120	慈鎮和尚詠	109	集韻	74

拾遺任生傳	130	十代集拔書和哥	117	十哲	12
拾遺愚草	96	袖中抄	10	酒天童子	181
拾遺語錄	134	十二月繪詩歌	108	酒天童子物語	152
拾遺集	175 (三)	十二門連哥新式	123	儒門統要	43
周易	28	十二類の繪	12	儒錄	17
周易纂註	25	十年勞共	187	駿牛繪詞	151
周易鈔	170 (二)	十八史略	52 (三)	春秋句解	26
周易註疏	25	十八史畧抄	177	春秋胡傳	25 (二)
周易注疏	170	聚分韻	75	春秋左傳評苑	26
十王讚嘆	136	宗門第一書	85	春秋至義	25
秋崖詩集	58	十輪院前内府薨時挽詞	158	春秋四傳	26
拾芥抄	19	拾玉	95	春秋釋義	25
秀歌大略	172	宿曜經	43	春秋十八國賽寶傳	35
周記	24	朱詩	23	春秋傳	25
周記集注	24	朱子書	166	俊成卿女集	96
十牛圖	85	朱子節要	60	遵生八牋	76
十七史	52	朱子大全	60	順德院御集	91
十七史百將傳	35	儒先錄	165	順德院御百首	105
周詩六卷	179	十花千句	122	疏 山門以下	154
拾塵集	103	出群拔萃	166	叙位	15
周信連哥	157	十首哥合	112	叙位勘例略	185
秋霜集	153	述成	135	叙位記	15
		建保			187

叙位記	中外記	185	象戲之圖	183	浄土雙六賽	183
叙位記	東山左府記	185	将軍家	113	浄土雙六之圖	183
叙位儀		185	将軍家哥合	113	浄土要決抄	133
叙位雜例拔書		187	文明十三年十一月廿日		紹巴獨吟千句	121
叙位事		186	文明十四年		昌叱發句	120
叙位次第		185 (四)	蕉賢大士語錄	167	紹巴獨吟千句	121
叙位次第略		186	相国寺塔供養記	148	昌叱發句	120
叙位除目清書抄		185	聖財集	131	少微通鑑	53 (二)
叙位不審條々		185	正治百首	104	少微通鑑大全	53
叙位申文撰定目錄		186	小厮兒鈔	80	松風論	137
叙位申文等		187	尚書	23 (二)	紹芳法師連哥	124
叙位略次第	假名	187	尚書聞書	177	正法輪藏	131
叙位略頌		185	尚書纂圖	23	逍遙院歌	107
讓位記		187	尚書鈔	170	逍遙院名所百首	107
正韻		15	尚書注疏	23	少陵詩	68 (二)
蕉雨講		73	消息詞	157	性靈集裏書	134
紹運圖		162	正宗贊	85	昌黎集	69
小學		54	正宗贊略抄	85	初学記	50
小學集疏		176	正續傳	78	諸家系圖	10
貞觀政要		33	昭代典則	41	諸家傳	11
承久物語		33	稱談	171	書經集註	176
将基藤葛		151	樵談治要	144	書經大全	24
		49 (四)	正徹	107	諸經要集	23
		165	聖廟法樂百首	133	叙玉秘第一	77
		14	浄土三部經音義	107		186

職原抄	11	143	詩話總龜	38	新勅撰名所拔書	175
職原抄之類	19	19	晋安風雅	65	塵滴問答	134
しよく人の哥合	181	181	秦漢府	40	新添官制	41
書言故事	39	(二)	秦漢文選	62	慎獨齋詩集	58
諸子品節	32	32	臣軌	49	神皇正統記	147
諸史提要	52	52	新宮撰哥合	111	心要	79
諸儒議論	44	44	心敬僧都連哥	124	新葉和哥集	117
書集傳	23	23	心敬發句	120	新類句和歌集	10
諸神本懷集	131	131	心敬連哥	124	新六帖	117
叙断易發蒙	25	25	新古今集	9		
白川渡におはしませし	181	181	真言畧義	135	す	
白川殿七百首	104	104	新三十六人哥合	99	翠屏集	58
史略抄	162	162	新式	123	数字	142
しりんけんよりのゑ	181	181	神書	19	鄒州聞書	177
事林廣記	45	45	新撰玉海部類集	178	季良抄	177
詩林廣記	66	66	新撰髓腦	99	資隆集	94
事林廣記拔萃	167	167	新撰菟玖波集	127	住吉社哥合	114
詞林採葉抄	102	102	心前獨吟千句	121	住吉物語	146
緇林寶覽	84	84	新撰明德記	151		
四六標準	59	59	新撰朗詠集	141	せ	
事類賦	44	44	新玉津嶋社哥合	114	井蛙抄	101
事類書林	44	44	貞治六年	175	聖賢語論	33

仙洞哥合	寶德	113	宗祇初学抄	127	宗長	永文	126
仙洞句題	五十首	106	宗祇独吟	125	宗長嫌詞		127
仙洞正治二年哥合		112	宗祇法師獨吟千句	120	宋朝通鑑		51
仙洞十人哥合		112	宋高僧傳	84	草堂詩	非一人詩	65
前燈新話		42	增校功用正音	75	僧寶傳		83
前燈餘話		42	草子	75	僧寶傳聞書		179
仙佛奇踪		35	莊子	32	宗牧獨吟每月千二百韻		123
懺法講記	御經供養 曼陀羅供	16	莊子聞書	177	宗牧獨吟六百韻		123
禪門寶訓		84	莊子三注大全	32	增補評釋昭明文選		62
禪林類聚		84	莊子神駒	32	草木異名		99
禪祿拔書		153	莊周抄	170	草木器用		179
宣和畫譜		42	藏集	178	蘓翰林鈔		162
			宋少陵詩	6	蘓玉堂		6
			僧史畧	84	蘓顯詩集		58
祖苑異花		78	宋齊丘化書	45	即位叙位日記等		187
祖苑聯芳		85	宗砌七廻追善	126	息畊語		88
草庵和哥集		96	宗砌連哥	124	續高僧傳		84
宋雅百首		106	宋僧詩集	66	續古事談		143
宋鑑		52	藏叟摘彙	88	續五明題和哥集		118
宋鑑節要		52	增續韻府	7	續資治通鑑		53
鼓規		79	早卒百首	107	屬辭比事		170
總龜對類		39 (二)	追遙院名所	101	續新編類家詩集		66
			雜談記				317

瀧尾皇子和歌會	107	鐺津文集	86	注法華經	80
高藤公繪	12	澹居菓	80	中殿御會 貞治六年	107
隆祐朝臣集	96	断橋語錄	87	註心賦	78
鷹秘哥	115	為頼集	93	中将碁之圖	183
鷹詞之百首	173	為尹卿千首	105	中書王物語	151
鷹詞	173	為兼卿和歌抄	102	中州集	62
對類集	39	為兼卿卅一首	109	中古三十六人哥合	99
對類賽大成	39	為家卿集	96	中興禪林風月集	66
題林愚抄	119	玉藻前物語	152	中興鈔	159
内裏花見讀歌 文龜元三十六	108	玉取尼物語	152	中興詩	66
内裏御會始 永享十年	108	田多民部集	94	中光記	189
内裏御會 永仁元年八月十五夜	107	忠度卿百首	105	忠義集	36
内裏御哥合 應永十四年十一月廿七日	111	尹豊卿詠草	156	中外記	187
内裏哥合 天德四年三月卅日	111	竹むきか記	148	道到和哥 文明十五	157
大明律	41(二)	武衛義敏詠哥	156	知天命	43
大明仁孝皇后内訓	41	竹とり	145	癡絶語録	88
大明開山法語	137	竹内僧正家句題歌	108	竹林抄	125
大明一統志	45	釋善集	126	千栗山	13
當麻曼陀羅註	129	卓氏漢林	39	奢臆抄 孕句也	179
太平廣記拔萃	167	巧題百首和歌	155	竹苑抄	101
薰物御方	49	琢庵馮先生試録	60		
			20	ち	

中右記	17	189	
中庸	28	(二) 29	
中庸抄	170		對句抄
中庸章圖	29		通書
張泉星	43		通鑑綱目集覽
長恨歌 本注	161		通鑑節要
長恨歌琵琶引	161		月次御會
長恨歌琵琶引抄	67		水亨十年 後崇光院
長秋詠草	161		菟玖波集
帳中香	94	(四) 159	土御門院御集
蝶紋	20		土御門院順德院御百首
聽聞集 畧	96		九折
朝野群載	16		經高卿記
勅修清規	86		妻鏡
勅撰次第	98		つれく草
勅撰部類名所 乾	118		つれく草抄
勅点 百首愚詠	107		て
勅点 永正三五	17		
勅答御点散状	127		帝王編年圖
知連抄	39		定家卿假名遣
珍珠囊	129		定家卿相模
鎮西			定家卿消息
			定家御指南詞
			帝鑑圖說
			汀玉和哥集
			庭訓往来
			庭訓往来私記
			鄭詩
			廷尉補任
			貞文老詩
			摘錦評林
			輟耕錄
			天隱詩藁
			天下白
			殿上歌合
			殿上藏人哥合 付山家
			天台
			天台四教儀集
			天中記
			天厨禁燭
			傳燈顛禪師傳
			傳燈錄
			天文三甲午 自正月 至八月
			天文十九 十二月
			天龍開山語錄

唐音遺響	63 (一)	道澄准后御哥	107	獨吟 宗長	124	180	131
唐音始音	63 (二)	唐朝四賢詩	66	獨吟千句 宗長	120	143	
唐音正音	63 (二)	道德經廣義	5	徳失鏡	69	143	
東漢帝紀	165	東坡 御開書	180 (二)	讀杜愚得	69	143	
東漢 列傳第二卷	166	東坡 聞書	178 (二)	処ゝ点取連哥	125	69	
唐賢家法詩	65	東坡 雜々	178	土佐日記	147	125	
唐賢詩抄	161	東坡 鈔	178	杜詩	147	125	
唐才子傳	36	東坡 鈔	161	杜詩抄	68	147	
東齋隨筆	149	東坡 稿詩	165	杜詩抄述注	68	147	
東槎集	63	東坡 廿五聞書	179	杜詩抄述注	69	147	
唐詩解	66	東坡 文集	169	杜子美聞書一結	69	147	
童子訓	169	唐文粹	61	都氏文集	164	178	
唐詩鼓吹	63	東文選	61	杜少陵抄	161	178	
唐詩選	66	道命集	93	とはすかたり	149	161	
唐詩品彙	6	童蒙抄	100	とりかへはや	145	161	
東寺之記	137	東遊集	167	杜律選註	69	145	
唐書評節	51	東萊博議	168	な		69	
陶靖節集	67	同類和歌	46	内外万物縁起	130		
桃染雨	156	梅尾明惠上人傳	101	中務親王三百首和哥	105		
唐宋詩	66	梅尾明兩上人法語中	131	中務内侍日記	148		

中綱卿百首	105	廿五番哥合	道堅法師自詠	115	女人可恐男子繪詞	152
長門國住吉社法樂	108	廿四孝注		36	如居士	86
中院詠草 自撰	96	廿八品歌		109 (二)	如法念佛	148
中院殿御集 為家卿	96	廿八品句題		118	忍替獨吟千句	121
永原千句	122	廿八品和歌		109	人天眼目	85
なくさみ草籠の塵	102	二種全書		34	人天寶鑑	85
成仲宿祢集	94	日伊録		154		
南華真経副墨	32	日用清規		154	ね	
難経	76	日連尊者繪詞		130	寢覚記	149
南軒集	70	二八明題和哥集		118	涅槃経	78
難題百首 四人	106	日本往生極楽記		130	拈香	168
南唐書	51	日本紀		19	年中行事	12
南堂録	87	日本紀 神代上		166	念佛安心文	135
		日本書記 神代上		143 (二)	念佛奇特集	136
に		日本人詩		13	念佛鏡	135
二経精解	34	二萬三十字抄		169	念佛三昧法門	135
二四代集	117	女院号記		15	念佛名義集	136
西宮左大臣集	93	女房家哥合		115		
廿一史	55	女房三十六人哥合		116	の	
二十一史論贊輯要	52	女叙位		15	野守鏡	102
廿一代集	9	女除位聞書		186	範輔記	189
二十九子品彙	32	女叙位次第		186 (三)	法のむしろ	148

文苑英華	38	62	僻案秘書	100	法輪物語	134
文膽	46		碧岩聞書	179	北西廂記	42
文海披沙	62		碧巖鈔	85 (二)	保元物語	151
文華秀麗集	163		碧山堂集	67	蒲室集	63
文軌	62		別當社哥合	115 (二)	蒲室集疏	63
聞桂詩	70		辨偽錄	78	蒲芽	162
文獻通考	49		扁鵲傳錄	162	蒲根	162
文章軌範	62		便覽臺曆	43	蒲葉	162
文章正宗	61		編年通論	83	補注蒙求	36
文編	6				北磻詩集	57
文鳳鈔	165	166	ほ		北磻文集	57
文明哥合	113		報恩講私記	144		
文明十四年詩哥合	113		法苑珠林	88	發句帳	120
文明十六年三月廿八日	109		旁訓	53	發句帳	120
分類杜詩	68		寶治哥合	112	法華科注	7 (二)
			寶治御哥合	112	法華玄義科解	7
			寶治百首	104	法華傳記	79
			寶物集	131	法華廿八品歌	155 (二)
平家物語	11 (二)	151	抱朴子	32	法華文句	89
平戸記	17	189	法文哥	109	法性寺殿哥	115
平治物語	151		法門四十七首	109	發心集	131
平石語	87		方輿勝覽	45	發心即到	133
僻案抄	174					

法曹至要抄	16	麻衣相	43	水無瀬御影堂御奉納五十首	108
慕風抄	103	摩圍老人詩	70	源順集	92
堀川院艶書合	146	摩訶大象戲馬	183	脉訣難經	76
堀川院百首 初度	104	卷物	176	名字抄	176
堀川院百首 第二度	104	枕草子	134	行幸和歌 室町亭	110
堀川院百首拔書	104	雅永哥	156	明眼論	130
堀河院百首拔萃抄	173	匡衡	92	明禪法印述懷	134
本院侍從集	92	雅世卿詠哥	155	未來記	98
本因坊作	183	ますかゝみ	147	未來記注	172
本草綱目	6	萬葉集	9	未來記鈔	172 (-)
本大寺縁起繪詞	129			彌勒地藏合戰記	152
本朝紹運録	15	み			
本朝新修往生傳	130	三嶋社千句	121		
本朝制書	41	水鏡	147	昔式中古之連哥	124
本朝文粹	11	水原千句集 明應五	122	昔連哥	125
梵網經	89 (-)	弥陀畧疏	80	無我念佛決定往生義	135
梵網經聞書	89	御注孝經	27	無過不及	170
梵網經畧抄	89	御註文選表	161	夢岩早霖集	167
翻譯名義集	89	道行觸	149	無外題 端欠百首点	109
		躬恒集	92	無外題	110
		水無瀬宮御法楽 明應四 十一廿一	108	無外題 高野明遍選撰集	128
毎月抄	101	水無瀬戀哥合	112	無外題 安居院	135

文選纂注評苑

文選像讀

文選表

や

薬性歌訣

八雲

八雲一言記

八雲御抄

譯和倭歌集

泰衡征伐物語

野馬臺之起

山かつの記

大和物語

野問雲答

ゆ

維摩詰所説經

遊仙窟

酉陽雜俎

よ

62 沓冠和歌

161 陽光院御詠草

161 陽光院五十首 三光院点取

楊子法言

要文集蜜藏明堂

76 吉水前大僧正哥合

19 豫章文集拔萃

101 世継目録

100 輿圖廣畧

174 よろつの御法

ら

148 礼記

145 礼記會通集注

101 礼記集注

礼記疏

礼記疏意

77 礼書

62 羅漢

46 駱賓王文集

羅湖野録

羅山集

109 嵐齋疏藁

91 蘭基妙選

り

179 李翰林詩

115 陸渭南詩

168 六学僧傳

140 六子全書

45 陸宣公集

148 六韜

李太白全集

立春 文明八年百日和哥

24 律令

24 李白集

24 李孟全詩

24 畧韻

24 劉向説苑

24 柳先生集

80 龍龜手鑑

57 童舒浄土文 略抄

87 劉隨州詩集

58 柳文

柳文 御聞書同御拔書	180	類聚	98	列子	31
凌雲集	163	類聚玉屑略	166	列子口義	31
良河獨吟連哥 十二月	123	類聚國史	14	列仙傳	35(二)
令義解	16	類聚三代格	16	連哥合	124
兩吟千句 紹巴法眼 昌叱法橋	121	類聚淨土五祖傳	133	連哥合百升番	124
梁高僧傳	84	類聚勅撰名所和歌抄	9	連哥口傳	126
楞嚴疏	90	類說節要	45	連歌三部書 秘	173
兩大史選	59	累代御讀書始古文孝經	27	連哥式句共	121
呂氏春秋	32	類葉	20	連哥十百韻	123
臨鴈草	128			連哥抄物	126
林間錄	88	九		連歌抄物 宗祇作	127
臨江齋發句	120	靈源筆帖	80	連歌抄物 宗祇作	127
臨江齋發句書添	120	冷齋夜話	38	連歌抄物 宗祇作	127
臨濟語錄	87	礼部韻	74	連哥初心 勤学	127
臨濟錄	87	礼部韻玉篇	74	連哥新式	122
臨濟語錄	87	礼部韻玉篇	74	連哥新式聞書	123(二)
臨濟語錄	87	礼部韻畧	74	連哥新式秘抄	123
臨川集	71	歷代帝王臣圖	54	連哥天仁於葉	128
輪寶紋	13	歷代帝王編年互見圖	54	連哥得失問答	127
る		曆朝史鑑	51	連哥拔書	157
		曆朝捷錄	54	連哥之詞	123
類句和歌集	10	曆法通書大全	43	連哥七句付	124
類廣集	178	列國傳	35	連哥秘抄	127

和靖先生詩集

和唐詩

難読書名

即之掛物

掇古人物寄編

十紅葉 近代大炊御門道場會

砌下抄日

山嶮峨 熊野之事

尾磔閑童字書

歌奉

言永哥欠 姉小路 三條西
飛鳥井

聖之清抄

閑葛藤

63 58

179 170 158 146 142 132 125 122 37 12